



「感謝の気持ちを“力”に換えて」

平成28年11月10日

第12回タイガースカップ
出場チーム事務局長 各位

一般財団法人
日本リトルシニア中学硬式野球協会
関西連盟
大会運営委員長 杉本 篤彦
TEL 090-8212-1671

第12回タイガースカップについてのご連絡

◇開会式当日の下記ご連絡と、お願い事項についてご協力よろしくお願い致します。

1. 甲子園球場周辺路上での駐・停車しての乗降は絶対しないようお願いします。

もし道路警備係りに注意されてタイガースへ報告された場合、次回からの出場は断られますので厳守願います。(応援団等も同様です。)

*チーム車両(2台)の駐車は球場内駐車(許可証あり)となりますので誘導者の指示に従ってください。(他の車は周辺の有料駐車場へ駐車願います。)

球場内駐車場開門：6時30分～ 球場開門：7時～

2. チーム到着次第、球場正面右横の関係者入口内で受付を済ませてください。
3. チームプラカードとチーム旗を忘れないようお願いします。
4. 甲子園球場外周でのアップは禁止。室内練習場には必ず指導者が同行してください。

(選手単独での練習は不可)

5. 鳴り物の応援は、メガホンのみ、ステックバルーン(長風船)は使用禁止。
6. ボールボーイは、20名の選手の中から出してください。
7. 監督・コーチには、大会約款を十分理解してもらっておいてください。

その他、配布の確認事項をよく見ておいてください。

8. 選手20名と指導者3名の昼食弁当はタイガースから配られます。

お願い：11月26日(土)は、シニアリーグの当番日となりますので朝一番と、試合中の球場観覧席警備、終了後の道路警備等、各チームから4名協力よろしく
お願いします。

6時15分に球場前に集合していただき連盟役員の指示を受けてください。

以 上

本大会は、中学生硬式野球団体が他団体と交流することにより、中学生硬式野球の発展に寄与することを目的とする。
上記目的に賛同する団体は、主催者と各団体代表者による実行委員会の承認をもって、出場することができる。
大会運営にあたり、下記の大会特別規定をさだめる。

- ① 本大会に参加できる選手は所属団体の規定を満たす者とする。2016年9月末日の時点で登録されたチーム以外からの参加は認められない。
- ② チームは、単独チームとし、20名以内の選手で編成すること。またベンチに入ることができる監督、コーチ(スコアラーも含む)は3名までとする。選手、監督、コーチは原則として同一のユニフォームを着用すること。ただし、所属団体に別の規定を有する場合、それを優先する。背番号は所属の団体の規定の通りとする。
- ③ 本大会出場登録選手が試合当日12人に満たない場合は、そのチームの当該試合を不戦敗として取り扱う。
- ④ 本年度公認野球規則と下記の細則により、試合を行う。
 - (a) 各チームの主将は試合開始時刻40分前、または前試合4回終了時所定のメンバー表を本部に提出し、同時に審判員立ち会いの下で攻守を決める。
 - (b) 各試合は7回戦で行い、降雨その他の理由により試合続行不可能の場合、4回終了をもって正式試合とし、それ以前の場合は再試合とする。(この場合審判員協議の上で決定する)試合成立後は開始から2時間を超えた場合、新しいイニングには入らない。(準決勝は7回迄、決勝戦は勝敗が決着するまで延長戦を行う)
 - (c) 得点差によるコールドゲームは4回以降に10点差、5回以降に7点差以上になった時に成立する。ただし、決勝戦は除く。また、正式試合となった後、降雨等により試合の途中で中止された場合は規則書4.11(d)【注】をもって勝敗を決する。なお、本大会はサスペンデッドゲームを適用しない。
 - (d) 7回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長は10回迄として、10回終了後は新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する(「タイブレーク実施細則」参照、ただし決勝戦は除く)。
 - (e) 投手はダブルヘッダーでの連投は認めるが、1日7回以内とし、連続する2日間で10回以内とする。
 - (f) 選手が打席に入る時は、必ず耳つきヘルメットをかぶること。また、走者になっても危険防止のため必ず着用する。なお、捕手も防護用ヘルメットと所定の防具を着用すること(練習時も含む)。
 - (g) 臨時代走は認める。ただし、特別な事情の場合(死球など)に限り少し休めば試合に出場できると審判員が判断した時に適用できる。この場合、その打者の最も近い打撃の完了した(投手・捕手を除く)選手とする。
 - (h) 一試合のタイムの回数は、攻撃時2回、守備時2回までとする。(マウンドに3人以上集まってもタイム1回とみなす)延長に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、攻撃時、守備時ともに、1イニングにつき1回だけタイムを取ることが許される。
 - (i) その他、不測の事態が起こった場合は、大会本部の決定に一任する。
- ⑤ 各チームは必ず成人である責任者が引率し、大会中、選手のすべての行動ならびに応援に対して責任を負うこと。
- ⑥ 審判に対する申し出は監督が行う。ただし、審判のジャッジには抗議できない。
- ⑦ 傷害処置については、大会中の負傷または疾病に対して応急処置は施すが、それ以上主催者は責を負わない。

(タイブレーク実施細則)

- (a) 延長10回あるいは試合開始から2時間を超えて(いずれか早い方、ただし準決勝は2時間を超えても7回終了まで行う)両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
- (b) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- (c) この場合の走者は、前項による打者の前の打者の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
- (d) この場合の代打および代走(臨時代走を除く)は認められる。

大会特別規定・補足

- ① 球場に到着したチームは本部に到着した旨を報告し、メンバー表を受け取る。
- ② ベンチは組み合わせ表の左側のチームを1塁側とする。
- ③ グラウンドインから試合終了まで、ベンチに入ることができる者は監督、コーチ、スコアラー、登録選手のみとする。
- ④ グラウンドインしたチームは競技委員の指示のもとに、速やかに試合前の練習を行うこと。グラウンドルールがある場合はそれに従うこと。
- ⑤ 試合前のノックは5分間とする。(時間厳守のこと)
- ⑥ 試合をスピーディーに行うため以下の項目を守ること。
 - (a) 攻守交替時に守備に移るチームがスピーディーにポジションにつくことはもちろんのこと、攻撃に移るチームも第一打者とベースコーチは、ミーティング(円陣)に加わらず、所定の位置に速やかに付くこと。
 - (b) 投手は投手板に触れている状態で、捕手からサインを受けること。
 - (c) 打者は、みだりにバッターボックスを出ることは許されない。たとえ、タイムを要求しても審判員がタイムを宣告しない時はインプレーとする。
 - (d) 次打者は必ずウェーティングサークルに入り、膝をついて待機すること。危険防止をふまえた上で、片膝をついてスイングすることは、場合により認められる。(投手が次打者になる場合も同様である)
 - (e) 捕手は投手に返球したり、野手に声をかけるために一球ごとにホームプレートの前に出ないこと。
- ⑦ 監督またはコーチがマウンドにいく制限は、野球規則8.06を採用するが、投手は自動的に試合から除かれることなく、他の守備につくことができる。また、一度他の守備についたこの投手が再び投手の位置についても差し支えない。
- ⑧ コーチボックスには、監督、コーチ、選手いずれが位置しても差し支えない。
- ⑨ コーチボックスにいるコーチャーは相手選手をまどわすような動きをしてはならない。
- ⑩ 選手の手袋などの使用については、対戦チームの不利益にならない範囲で使用するを認める。
- ⑪ 試合中に次の試合のチームは、グラウンド内で投球練習をしてはならない。
- ⑫ コミは球場(グラウンド・スタンドを問わず)に捨てず、必ず持ち帰ること。スタンドで応援する選手、保護者にも徹底すること。
- ⑬ 審判の担当については、試合に出場しないリーグから主審と塁審(2塁)の2名、他のリーグから塁審(1、3塁)1名ずつの計4名とする。